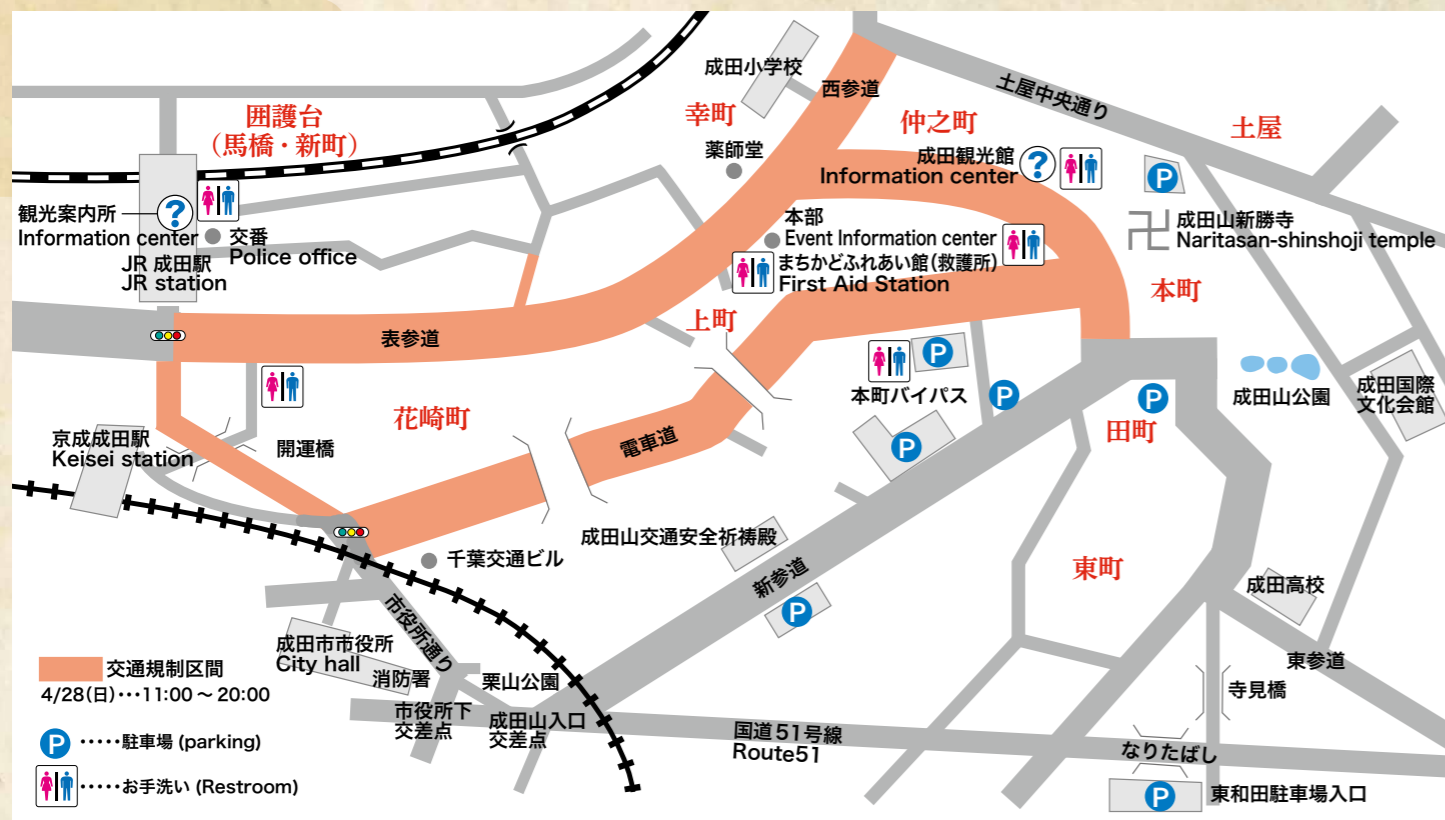


山車・屋台 運行コース



成田山車まつり

今年の市内各地区の山車まつり

行事名	期日	場所
成田祇園祭	7月5日・6日・7日	成田山新勝寺
押畑区夏祭り	7月13日	押畑区内
寺台保目神社祭礼	7月26日・27日	保目神社
並木町夏祭り	7月27日・28日	埴生神社
麻賀多神社例大祭 (台方・下方)	7月最終日曜日	麻賀多神社
松崎二宮神社祭礼	7月27日	二宮神社
三里塚祇園祭	7月下旬	天満天神社
本三里塚区夏祭り	7月下旬	本三里塚地区
宗吾区祭礼 (御待夜祭)	8月31日、9月1日	宗吾霊堂
飯田町秋祭り	10月12日・13日	琴平神社

山車まつり案内

- 午前10時 山車・屋台集合 (市役所駐車場)
 - 午前10時20分～ 山車まつり式典・総踊り (市役所駐車場)
 - 午前11時15分～ 山車・屋台巡行 (表参道周辺)
- 【巡行順路】**
市役所 → 千葉交通ビル → 電車道 → 信徒会館 → 総門前 → 薬師堂 → JR成田駅前交差点(左折) → 千葉交通ビル(左折)
※この順路を3周巡行します。
- 午後7時 巡行終了

参加町内・団体(順不同)



4月28日 午前10時20分

主催：成田山車まつり実行委員会
後援：成田市 成田市観光協会

お問い合わせ
☎0476-20-1540
【成田市観光プロモーション課】

観光情報は こちらから
FEEL成田

山車まつり式典・総踊り

時間：10：20～
場所：成田市役所駐車場 ※雨天決行・荒天中止

山車・屋台巡行

時間：11：15～
場所：成田山表参道

◆当日は表参道周辺で交通規制が実施されます。

表参道を練り歩く

山車・屋台

山車・屋台の解説 ①若者連の名称 ②下座連・囃子方の名称 ③額の文字 ④人形の名称 ⑤一口メモ

成田市は昭和29年3月31日、1町6村が合併して誕生。平成18年には、下総、大栄両町と合併し、現在に至っています。この愛するふるさと成田には数多くの郷土芸能や祭りが現在も引き継がれ、各地区で盛大に行われています。本年は市制施行70周年という成田市にとって記念すべき新たな飛躍への年であります。市制施行50周年、55周年、60周年に引き続き、その記念行事として市内の山車・屋台が成田市役所に集合し、成田山新勝寺の表参道を勇壮・華麗に巡行します。

東町の屋台

①東町東栄會
②あづま下座連
⑤昭和53年6月に完成した二代目の屋台で、正式には「曳き廻し屋台」と言います。総樺造り、銅版瓦葺き、総漆塗り仕上げで、屋台正面は武家屋敷のかご寄せ玄関を思わせる唐破風造りになっています。平成18年、屋台の四方に獅子、鳳凰、恵比寿大黒、昇り龍などの立派な彫刻が施され、より重厚で威厳のある屋台になりました。



田町の山車

①田町東門会
②神崎芸座連
③光明(成田山中興第20世鶴見照碩大僧正御直筆)
④素戔鳴尊
⑤成田山新勝寺東方のお膝元にあり、江戸時代から「四番町」として長い伝統を誇る田町。威勢のいい山車の曳き廻しで知られています。人形がせり上がる二層式の山車は前面に荘厳な唐破風の踊り屋台が付く伝統的な様式で、昭和53年から活躍する三代目です。人形は荒ぶれの神から善神へ転化したとされる「素戔鳴尊」で右手に日輪、左手に巻子を持ち、繁栄と平穏をもたらします。



囀護台三和会の山車

①囀護台三和会
②囀護台下座連
③法王(成田山中興第21世橋本照総大僧正の直筆)
④嵯峨天皇
⑤囀護台三和会は囀護台・新町・馬橋の三区で構成され、現在の山車は成田山開基1070年に合わせて区民の親睦と融和を願い新造されました。製作は印西市の棟梁正木寛氏によるもので、二層式屋台の形式をとり、柱と梁を繋ぐ木組みや上下の高欄を支える多くの斗拱など、伝統的な社寺建築の技法により建造され、精緻な彫刻が山車を飾ります。人形は成田山のお不動様とゆかりの深い「嵯峨天皇」で製作は八千代市の彫刻家田島義朗氏によるものです。



上町の屋台

①上町親和会
②鳥羽下座連
③上町(成田山中興第20世鶴見照碩大僧正御直筆)
⑤江戸時代後期に千葉院内の宮大工によって造られた純然たる彫刻踊り屋台。平成14年に一世紀振りの大改修を行い、屋根は唐破風一層造り、屋根・柱・土台・彫刻は全て本ケヤキで、一枚彫り抜きの上町扁額をはじめ双竜・朱雀・伎芸天・唐獅子・波に十二支・青龍・白虎・玄武・力神・極楽鳥・鳳凰等々を新たに加え、迫力有る彫刻屋台となりました。上巻番町としての長い歴史を現在に伝える重厚な屋台です。



幸町の山車

①幸若連
②幸町下座連
③金剛(成田山中興第21世橋本照総大僧正の直筆)
④朱雀天皇
⑤平成23年度製作の山車となります。二重高欄樺漆塗り、前面に欄間仕立ての踊り屋台があり、左右の前柱に唐獅子と中央に鳳凰と雲の金箔張り、丹精な彫りの字額「金剛」は、成田山中興第21世橋本照総大僧正の直筆。人形は平安時代中期、平将門の乱が起きたとき、追討の軍を送った「朱雀天皇」。新勝寺建立にゆかりの人物です。



土屋の山車

①土屋青和会
②土屋囃子連
④大穴牟遲神(大國主神)
⑤平成19年から二代目の山車となりました。山車は前部囃子台に唐破風の屋根、後部は三層でせり上がり式で江戸型山車です。人形、彫物は古事記の神話を題材にしたもので、人形は「大穴牟遲神」、彫物は懸魚に「伊弉諾尊、伊弉冉尊の国生み」、中段三方の欄間には「天照大神の天の岩戸開き」、「素戔鳴尊の八岐大蛇退治」、「天孫降臨」の彫刻を配し、神話の山車と呼ばれています。



仲之町の山車

①仲之町睦会
②如月会
③妍哉得國(成田山中興第15世石川照動大僧正御直筆)
④神武天皇
⑤明治33年、東京神田にて製作された成田最古の華麗な江戸型山車です。作者は村田政親と百雲正山本鉄之による共作です。人形は「神武天皇」。作者は初代山本福松によるものです。正面の額は、成田山中興第15世石川照動大僧正によるもので「妍哉得國」です。令和4年度に漆と金箔を中心とした山車製作以来の大規模修繕を行いました。



成田山の山車

①成田山交道会
②都築社中
③大日(成田山中興第20世鶴見照碩大僧正御直筆)
④日本武尊
⑤昭和63年、成田山開基1050年祭を記念し五世宮惣が5年の歳月をかけ製作した本格的江戸型山車。全体を漆で仕上げ金色の彫刻金具、極彩色の木彫り、西陣織の刺繍幕、特に腰拵の螺鈿、四君子の柱隠しの華麗さには目を見張ります。人形は川本喜八郎氏製作の日本武尊です。



花崎町の山車

①花若連
②花崎囃子連
③智勇(成田山中興第21世橋本照総大僧正の直筆)
④八幡太郎義家
⑤昭和51年の作、江戸型の山車で前部は囃子台に唐破風の屋根、後部は三層からなる鉾で最上部はせり上がり式になっている。山車には昇龍や牡丹、腰廻りには波に鯉、懸魚は鳳凰、さらに下高欄下には八幡太郎の説話三題の彫刻が施され、重量感のある造りです。人形は、平安時代の武将、武勇の誉れ高い源氏の棟梁八幡太郎義家。



本町の山車

①本町和会
②江戸里神楽4世萩原彦太郎社中
③勇武(成田山中興第15世石川照動大僧正御直筆)
④藤原秀郷
⑤明治35年製作された江戸山車で、村田政親・百雲正山本鉄之に依頼し、車輪・台座は神田紺谷町の川口家の製作です。人形は将門討伐や大ムカデ退治で有名な藤原秀郷(倭藤太)で製作は山本福松。山車は上中下三段構造の上段迫り上がり式で町内が狭いため、上中段が360度回転するのが特徴です。平成12年には車輪を新調しています。お囃子は新宿区無形文化財の萩原彦太郎社中による江戸囃子です。



寺台の屋台

①寺台成神会
②登喜和芸座連
⑤平成14年に旧屋台を模して制作された二代目の屋台です。総樺造り、唐破風一層造り屋根で上欄間の四方に龍、正面高欄下には波と千鳥の彫刻が施されています。また、懸魚背面には棟木を支える力士像を記し、風格を表しているのが特長です。毎年七月下旬の保目神社祭礼では、伝統ある神輿渡御と共に屋台の曳き廻しも行われています。



飯田町の山車

①飯若連
②佐原囃子 玉造流宗家 新和座連
③飯田町
④大國主命
⑤飯田町・琴平神社祭礼は区民全員参加の子供祭りとして年毎の例大祭に合わせて開催され、山車は森清氏製作。平成24年に祭礼30周年を迎え山車欄間彫刻を新調。上段は大國主命の説話「因幡の白兔」、中段は子孫繁栄と子供たちの健やかな成長を願い「唐子絵図」。下段は飯田町・印旛沼古風景、「五聖(松竹梅蘭菊)」、懸魚は「鳳凰」。作成は郷土の名工・江森南峯氏。子供祭りに相応しく優しさや温もり、先人への感謝、後世への思いが込められています。



宗吾の屋台

①宗和会
②宗吾藝座連
⑤昭和27年の宗吾霊三百年祭に初代の屋台を製作し、昭和33年まで町内を曳き廻し、その後は、祭礼時に輪踊りの「やぐら」として使用していました。昭和49年に町内の有志の手により、屋台の曳き廻しが復活し、昭和59年には総樺造り、銅版葺きの現在の屋台が新造されました。御夜祭は、木内惣五郎の命日である9月2日、3日を祭礼の日として参りましたが、平成16年度から9月の第1土曜、日曜に行っております。



台方・下方の山車

①若杉会
②大杉下座連
③若杉
④神楽獅子
⑤台方・下方区の山車は、森清氏(大袋)により総樺造り二重高欄二層屋台の形式で、平成5年に建造されました。高欄上の人形は、毎年7月末の麻賀多神社例大祭において奉納される「獅子舞」の勇壮な姿を表現しています。350年余りの歴史と伝統を誇る「獅子舞」は今もなお若杉会により受け継がれています。



並木町の山車

①並和会
②音無会
③並木町
④菅原道真
⑤昭和60年並木町民親睦のため、「並木町を愛し、地域との親睦を深め町内のために一つになり、協力活動をする会」として並和会を設立。平成4年から埴生神社の祭礼とともに、森清氏によって製作された現在の山車を運行し、第1回並木町夏祭りを開催。人形は、学問習得・向上の象徴とされる菅原道真。



本三里塚の屋台

①本三里塚若睦連
②潮風會囃子連
③本三里塚
⑤「本三里塚区夏祭り」は、地域の振興と町内の親睦をはかるため、昭和58年に始まりました。毎年7月末の土日に行われる、小さな子どもからお年寄りまでみんなで楽しむお祭りです。現在の屋台は2代目で、昭和60年にそれまで宗吾霊堂の御夜祭で使用されていたものを譲り受けました。絢爛な装飾こそありませんが、たくさんの人々の思いが詰まった親しみのある屋台として活躍しています。



成田ニュータウン自治会連合会の山車

①成連会
②囀護台下座連
③成田ニュータウン自治会連合会
④大般若面
⑤昭和21年、幸町の山車として新造され、その後、囀護台三和会を経て、昭和63年頃に成連会に受け継がれました。市内の山車の中でも古格格で、山車上の大般若が特徴です。成田ニュータウン地区交流のために始まった「成田ニュータウン祭り」と、その後の「成田ふるさとまつり」で、毎年8月に曳き廻しを行っていましたが、各自治会の露店やイベントと共に大規模な祭りでしたが、令和元年を最後に終了となったため今回の山車まつりが最後の運行です。



押畑の山車

①押畑親和会
②源囃子連中
③親和
④鎮西八郎源為朝
⑤初代の山車は、平成9年に飯田町より引継ぎ8年間曳き廻しました。現行の二代目は、平成18年に土屋区より引継いだ後部二層式の重量感あふれる山車で、人形は平安時代の武将、強弓の使い手で剛勇無双を謳われた鎮西八郎為朝です。土屋区時代以来、18年ぶりに仲之町の坂を駆け上がる勇壮な姿をご覧ください。

